

生きることを支える緩和ケア

日本人の2人に1人が、がんになるといわれる時代。吹田市民病院のがん治療は、手術・化学・放射線療法に加え、早期から緩和ケアを提供することで、質の高い医療をめざしています。また、同病院では緩和ケアチームが患者に寄り添う医療に積極的に取り組んでいます。同チームの宮崎医師に話を聞きました。☎病院総務室(TEL6387・3311 FAX6380・5825)。

緩和ケアとは

がんや心不全などの患者が抱える苦痛や不安を取り除き、患者やその家族がより生活しやすくなるように支援を行うこと。痛みやだるさなどへの医学的処置、気分の落ち込みなどへの精神的ケア、経済的・社会的不安への医療福祉相談など。

早期から切れ目なく、寄り添って支える

緩和ケアは、病気の末期に受けるケアではなく、病気と診断された早期の段階から治療と並行して行います。医師、看護師、薬剤師、公認心理師などから構成されるチームで週1回対象患者への回診を実施しています。患者と対話する中で、苦痛の原因を探るとともに、「子供の入学式を見たい」「家族が心配。話を聞いてやってほしい」などの希望に添えるよう最適なケアをチームで検討し、主治医と連携しながらきめ細かい支援を行います。

より良い時間を生きるために

現代はがんと共に生きる時代です。緩和ケアは、本人や家族が治療を受けたときに、良い時間を過ごすための一助になります。また、元気なころから家族などと望む治療やケアを考えておくことも大事です。



回診では、笑いを取り入れたりしながら患者さんが楽に気持ちを話せるように心がけています。

呼吸器・リウマチ科部長 宮崎医師

孤独の中にいる患者の力に

生前本心を見せない印象のあった患者さんの病室を片付けていると、死への恐怖や家族への思いを書きつづったメモを発見したことがありました。一人で苦しみに耐えている人を見逃さず、気持ちを聞き取りたいと強く思うきっかけとなりました。早期から緩和ケアを受けることで、体が楽になるだけでなく、気持ちを話すことで考えが整理できます。私たちは、患者さんとその家族を身近で支えます。

緩和ケア認定看護師 松本さん



緩和ケア相談窓口

患者支援センター(同病院内TEL6387・3311)へ。他院に通院中の人は、かかりつけ医へ相談してください。